

ゆりかご園だより

4期(1~3月)のねらい

表現活動を通して心を育てよう

卒園・進級を期待しよう 2019.1.1



あけまして

おめでとうございます

子どもも大人もひとりひとりが
大事にされる保育園づくりに
父・職員・理事が力を合わせましょ

ある日、3歳児同士が些細なことで叩いたり引っかいたりというケンカになりました。小さなケンカは経験してほしいけれど、大きなけがにつながらないよう子どもに伝えたいと思っていたところ、園に冊子が届きました。

独立行政法人日本スポーツ振興センターで毎年発行している『学校の管理下の災害』の平成30年版(29年度のデータをまとめたもの)です。死亡や障がいの、なんとも痛ましい事例が載っていて、中でも小学校4年生の男の子の事例を読んで胸が詰まりました。同級生の子とトラグリになり、頭や背中を複数回叩かれた末、意識を失い、病院に搬送されたものの頭部外傷で1か月後に亡くなったというものでした。

先の3歳児同士のケンカの後、この冊子を持って異年齢クラスの子どもたちの前に立ちました。「あのね、先生今からとても大事な話をするよ」というと、子どもたち皆こちらを向き、真剣なまなざしです。

- ・頭の中には大事なものがいっぱい入っていること。叩いたりしちゃけがをしてしまうこと。
- ・どれだけの力だと相手が痛い思いをするのか、傷つけてしまうか。保育園にいる間にケンカの練習をしてほしい。ケンカで大事だよ。
- ・大きなケガをしたり死んでしまったら、お父さんやお母さんだけでなく、みんながとても悲しい思いをする ことなどを伝えました。

家族にこの“大事な話”を報告した子どもいました。4歳児のMちゃんはその4年生の子の話を聞いて「心が痛くなった」と表現したそうです。話の内容を理解し心を痛める、そんな感情も育てきているのだと感心しました。

3歳児のRちゃんは、この話を聞いた日から、私の顔を見ると「先生、あの絵本(冊子)どこにある？お友だち危ないことしたらRちゃん(先生を)よぶから(あの冊子を読んでね)」と言うようになりました。“大事な話”がとても印象深かったのだと思います。

新しい年が明けました。子どもたちが心も身体も健やかに成長できる一年にできるよう願っています。